

平成 30 年度 南アルプス自然環境有識者会議 第 1 回会議 会議録

日 時	平成 30 年 8 月 8 日（水）午前 9 時 40 分から 9 時 55 分まで
場 所	県庁別館 9 階 特別第 1 会議室
出席者 職・氏名	<p>委 員（敬称略、五十音順）</p> <p>【生物多様性部会】 板井隆彦、増澤武弘、三宅隆、山田久美子（4 名）</p> <p>【地質構造・水資源部会】 大石哲、塩坂邦雄、森下祐一（3 名）</p> <p>県 川勝静岡県知事、鈴木くらし・環境部長、塚本部長代理、田島理事 （自然共生担当）、織部環境局長、稲葉環境政策課長、服部自然保護 課長、鈴木生活環境課長、前島水利用課長</p>
内 容	<p>1 開会</p> <p>2 知事挨拶</p> <p>3 委員紹介</p>
配布資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・南アルプス自然環境有識者会議 第 1 回会議 次第</li> <li>・南アルプス自然環境有識者会議 委員一覧</li> <li>・南アルプス自然環境有識者会議 第 1 回会議 県出席者一覧</li> <li>・座席表</li> <li>・南アルプス自然環境有識者会議設置要綱</li> </ul>

## 1 内容

### (1)開会

○司会 それでは、ただいまから南アルプス自然環境有識者会議第1回会議を開催いたします。

この有識者会議は、南アルプスにおける生物多様性の重要性を再認識し、リニア中央新幹線トンネル工事が、南アルプスの自然環境や大井川水系の水資源に及ぼす影響などを明らかにするため設置をいたしました。

また、この会議には、生物多様性部会と地質構造・水資源部会を設け、南アルプスの自然環境や大井川水系の水資源を保全していくための具体策について、専門家の方々に学術的な見地からご意見を賜わるため、10人の有識者の方に委員として就任をしていただきました。

### (2)知事挨拶

○司会 それでは初めに、川勝静岡県知事よりご挨拶申し上げます。

○知事 皆様おはようございます。

本当にこのお暑い中、お集まりいただきまして、まことに恐縮でございます。厚く御礼を申し上げます。

今、司会のほうから申し上げましたとおり、リニア中央新幹線が平成23年の春に、品川から、この南アルプスの中にトンネルを10キロばかりつくりまして、名古屋にまで結ぶと。このルートを2027年までに完成するんだという、そういうご発表がありまして、それがきっかけで、南アルプスと、この生物多様性、それから水資源とか水質にかかわる件に関しまして大きな関心が高まった次第でございます。

ちなみに、これは国家プロジェクトとして、国の政府も推し進めている重要なプロジェクトであるということございまして、これはもう1970年代ぐらいから計画が具体化してまいりまして、そしてその通過するルートというのは、大きくS字形を描いておりまして、東京から、神奈川、山梨、長野、そして岐阜、愛知、そして三重から奈良、大阪に至ると。こういうルートは、かなり前から描かれておりました。そうしたところから、ひょっとすると自分の地域にこのリニア新幹線が通るのではないかということで、各県、できる限り、この件につきまして、県の発展のために役に立つようにということで、さまざまなJR東海さんとの働きかけがありましたが、この間静岡県は、一度も、この平成23年の春に発表される直前に至るまでは、この可能性についてはなかったということで、大方の、370~380万の当時の住民の人たちにとっては寝耳に水のことだったと存じます。

偶々私は平成21年に知事になりまして、長くJR東海と、いわゆる「Wedge（ウェッジ）」という雑誌の主催する「地球学の世紀」というのが1990年代からございましたので、深い縁がございましたので、実験線に20世紀の間に乗せていただくなど、言ってみれば「これは非常に重要なものだ」ということで接心してきたわけですが、したがって平成23年の春にコースがわかりましたらば、大体のところがわかりましたので、連休のときには、人々が止めるにもかかわらずですね、「まだ雪がある」と。二軒小屋まで参りまして、さらに伝付峠まで登りまして、そこからルートを見まして、さらにまた日を改めまして、これは泊まりがけで行かなくちゃなりませんので。土捨て場をどうするかということまでですね、幾つか候補地を考えるなどしてきたのが私の動きだったわけです。

本当に無知蒙昧で、今心から反省しておりますけれども、この南アルプスが、平成25年に富士山が世界遺産になった、その翌年に、生物多様性を核とする「biosphere reserve」、日本でいう「エコパーク」に認定されるということがありまして、増田先生などにもいろいろとお世話をいただいたわけがございますけれども、そうした中で、水それ自体の問題というものに関しまして、地鳴りのように関心が高まってまいりました。

そのときにも、実は国家のプロジェクトとして、大井川の利水のための大きな計画が実施されておりまして、平成11年から20年近くかけまして、700億円近くお金を投じまして、7,450haの地域を灌漑すると。合計それで1万2千ha灌漑すると。「これでようやく安心して眠れる」というような、そういう話もだんだんとわかるようになり、そしてこの毎秒2 m<sup>3</sup>の水が失われかねないと。それがまた、単に流量だけの問題ではなくて、水脈、水質、そしてまた水に依拠している生物その他もろもろに対して甚大な影響を与えかねないということですね、これは本当にこれは世界の財産になっているものに対しまして、どのように私どもが、それを預かっている者の一部として対処するかということで、これは学術の本当のトップクラスの方々に、この点について議論を賜わって、それに基づいて、それを共有した上でですね、この事業などについて意見を申していかななくてはならないというふうに思っております。

ですから、差し当たって考えていただくべきところは、本県にかかわる南アルプスに、このリニア中央新幹線を通すことによりまして、悪影響があってはならんということでございますので、できる限りですね、忌憚のないご意見を賜わりまして、後世に恥ずかしくないような、静岡県としての態度を決めてまいりたいと思っている次第でございます。

今回、部会を2つ、それぞれトップクラスの先生方にご就任賜わりまして、今回は合同ということがございますけれども、南アルプスは1つでございますので、しかし専門はそれぞれ違いますので、両方のご意見を賜わりながら、我々として、しかるべきそう遠

くない将来にですね、それなりのご答申を賜わって、それをもってJ R東海さんと情報を共有し、どういうふうにするのが一番公益にかなうのかと。そういう観点で臨んでまいりたいと思っておりますので、何とぞよろしくお願いを申し上げます。

### (3) 委員紹介

○司会 次に、委員となられた方をご紹介をいたします。次第の次でございます委員の一覧をごらんいただきたいと思えます。

まず初めに、生物多様性部会の委員の皆様から一言ずつ自己紹介をお願いいたします。初めに、静岡淡水魚研究会会長、板井隆彦様でございます。

○委員 板井でございます。

県のほうでは、生物多様性地域戦略というのを、この際まとめましたが、その副会長をやらせていただきました。その縁で、この部会にも参加させていただいているというような次第でございます。どうぞよろしくお願ひします。

○司会 次に、お隣の、静岡大学客員教授、増澤武弘様でございます。

○委員 増澤でございます。専門は南アルプスの高山植物を主としてやってまいりましたが、大井川上流も含めて、南アルプス全体の植生に関しての仕事も随分させていただいております。今までに、県から委託された大きなプロジェクト、3つくらい南アルプスでやってまいりました。そして、昨日まで私、南アルプスの大井川の上流におりました。確実に自然が壊れる可能性があるところ、工事が始まってから壊れる可能性があるところ、それを全てチェックしまして、どこにどういう重要なものがあるのかを、できるだけ早くまとめて、皆さんに報告したいと思っております。よろしくお願ひいたします。

○司会 次に、N P O法人静岡県自然史博物館ネットワーク副理事長、三宅 隆様でございます。

○委員 三宅でございます。N P Oの自然史博物館ネットワークとして、ふじのくに地球環境史ミュージアムのバックヤードで、いろんな標本の整理その他に当たっております。南アルプスにつきましても、毎月1回は大体行きまして、哺乳類とか鳥の、野生動物の調査を継続しております。本当にいいところで、自然がいつまでも残るように、この会議で提案できたらと思っております。よろしくお願ひします。

○司会 次に、県立東部看護専門学校非常勤講師、山田久美子様でございます。

○委員 山田でございます。ここにお呼びいただいたのは、多分県の環境影響評価審査会に十数年委員をさせていただいたということと、その後南アルプスの工事の経過を見守るということで、やはり委員をさせていただいておりました。実際に私は、陸水生物研

究会という学会があるんですが、そこに所属しております、専門は水生昆虫のトビケラ目のイワトビケラという、ごく小さな仲間です。底生動物でありまして、非常にきれいな水のところにすんでおりますので、南アルプスには、全体の調査としては、かなり前に、西俣川から下流域まで入ったことがあります、それ以降は調査には入ったことはございません。視察に何度か行ったことがございます。どうぞよろしくお願いいたします。

○司会 また、特別顧問として、東京大学名誉教授、岩槻邦男様にご就任いただいておりますことをご紹介します。

続きまして、地質構造・水資源部会の委員の皆様から一言ずつ自己紹介をお願いいたします。

初めに、神戸大学都市安全研究センター教授、大石 哲様でございます。

○委員 神戸大学の大石でございます。

神戸大学で今働いておりますけれども、静岡県出身で、藤枝東高校の卒業生ということもありまして、県の事業には幾つか携わらせていただいております、現在も県の河川審議会の会長をさせていただいております。専門は水文気象学といたしまして、水の循環などを定量的に計測し、推測するということが専門であります。よろしくお願いいたします。

○司会 次に、株式会社サイエンス技師長、特別上級技術者、塩坂邦雄様でございます。

○委員 塩坂でございます。

唯一の民間人で、コンサルタントをやっております。南アルプスに関しましては、もう40年間、環境アセスメントをずっとやっておりまして、特に国交省の長島ダム、それから中電の赤石ダムの環境アセスメントにかかわりまして、私は専門が構造地質なものですから、地質のことを専門にやっておりまして、ダム軸の位置の調整だとかにかかわってございまして、その中で、特に南アルプスは、世界的にも大変隆起の多いところなものですから、大規模崩壊。山体そのものが滑ってしまうような調査をやってございまして、そこと地下水の関係というのは非常に重要なので、つい最近では糸魚川静岡構造線の露頭を静岡県で唯一発見しまして、そういうわけで今回の委員会にも参加させていただきまして、私の経験が少しでも生かされればと思っております。よろしくお願いいたします。

○司会 次に、お隣の、静岡大学大学院理学領域教授、森下祐一様でございます。

○委員 静岡大学理学部、森下と申します。

5年前までは、つくば市にあります国立研究開発法人産業技術総合研究所の研究グループ長として、資源、環境、地球科学に関するさまざまな研究を行なっていました。

現在は静岡大学教授として、地球環境科学と資源地質学の教育研究を行なっております。

す。今年は、これに加えて、地球科学科学科長と、資源地質学会会長として、組織のマネジメントもしております。

水資源問題は、私たちの生活に大変身近ですので、それに対する学問研究のアウトリーチというものは大変重要であると私は考えておりますので、この会議を通じて有意義な提言を行なうことができたらいいなというふうに思っております。よろしくお願いいたします。

○司会 ありがとうございます。

また、本日都合により欠席された2人の委員の皆様をご紹介します。

初めに、生物多様性部会の委員にご就任いただきました、ふじのくに地球環境史ミュージアム教授、岸本年郎様は、昆虫分類学、生物地理学を研究されております。

次に、地質構造・水資源部会の委員にご就任いただきました、国立研究開発法人産業技術総合研究所総括研究主幹、丸井敦尚様は、長年地下水研究グループ長を務められ、専門は地下水学でございます。

次に、委員紹介に引き続きまして、10時より部会を開催いたします。場所は、生物多様性部会が別館20階第1会議室B、地質構造・水資源部会がこの会場となります。大変恐縮でございますけれども、生物多様性の委員の皆様方は、ご移動のほうをお願いいたします。よろしくお願いいたします。